平成 26 年度入学生対象

平成２６年2月２６日

別記様式1

主 専 攻 プ ロ グ ラ ム 詳 述 書

開設学部（学科）名〔教育学部第四類（生涯活動教育系）音楽文化系コース〕

プログラムの名称（和文）	音 楽 文 化 教 育 プ ロ グ ラ ム
（英文）	Program in Music Culture Education

１．プログラムの紹介と概要

音楽文化教育プログラムは、主に中・高等学校音楽科教員の養成を目的としているが、加えて生涯教育における専門的指導者など多様な人材の育成にも十分配慮している。そのために、自主的な学習態度を身につけ、論理的・批判的思考力を育成し、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につけるためのアカデミックな学習基盤を形成することを目指す。

本プログラムでは、中・高等学校の音楽科教育を実施するうえで必要な教育に関する基礎的な知識、能力、技能、および態度を、理論、実技、実習などを合わせて学習することによって体系的に身につけることができるようにカリキュラムが組まれている。

また、大学院に進学し研究者として活躍する人材の育成や企業や公共事業団体における教育・文化専門職従事者の育成、さらには生涯教育の現場での指導者など、社会に貢献できる人材の育成にも対応している。

２．プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

プログラムの選択、および登録は、入学時とする。

３．プログラムの到達目標と成果

（1）プログラムの到達目標

本プログラムは、主に中・高等学校音楽科教員、さらに生涯教育における専門的指導者として必要な次のようなことの達成を目指す。

- 学校教育における音楽科教育に関する研究能力の開発と教育実践力の育成
- 学校教育における音楽科教育内容に関する研究能力の開発と教育実践力の育成
- 生涯教育及び音楽文化全般にわたる基礎的知識の習得と演奏・創作能力の育成

本プログラムにおける教養教育は、合唱あるいは吹奏楽実習という比較的大規模なアンサンブルによって音楽活動における共同と協調を体験できるように配慮がなされている。

（2）プログラムによる学習の成果

〇知識・理解

- 中等学校とその教育に関する基礎的な知識の習得とその理解
- 中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識の習得とその理解
- 中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識の習得とその理解
- 生涯教育及び音楽文化全般に関する基礎的な知識の習得とその理解

○知的能力・技能

- 中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得
- 音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得

○実践的能力・技能

- 中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力の習得
- 中等音楽系教育内容に関する基礎的能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系諸科目を統合する横断的能力の習得
- 生涯教育及び音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、プレゼンテーション能力などの実践的能力の習得

○総合的能力・技能

- 研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる能力
- 教育実践や調査に関する発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領よく整理し、プレゼンテーションできる能力
- 教育実習や定期演奏会などによって育成される社会性・協調性
- 研究において必要とされるＩＴ活用力
- 様々な文化における音楽芸術に感動できる能力

４．教育内容・構造と実施体制

（１）学位の概要　（学位の種類，必要な単位数）

本プログラムが提供する学位は、学士（教育学）である。その取得には、本プログラムにて実施される授業科目を選択履修することによって修得する１２８単位を条件としている。

（単位数の内訳：教養教育３６単位、専門基礎科目３０単位（類共通科目２単位を含む）、専門科目３１単位、専門選択科目２５単位、卒業研究６単位）

（２）得られる資格等

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、中学校教諭一種免許（音楽）、及び高等学校教諭一種免許（音楽）が取得できる。また、特定プログラムを追加して修得すると、学芸員、社会教育主事、学校図書館司書教諭などの資格も取得可能である。

（３）プログラムの構造

専門教育では、専門基礎科目３０単位と卒業研究６単位が必修である。また進路にあわせて選択可能な専門選択科目、教員免許取得に必要な教職基礎科目、および類共通科目を合わせて９２単位以上取得することが必要である。

１年次は、基礎力の修得のために、主として教養科目と基礎的な専門科目が提供される。２・３年次は、教育実践力と演奏・創作能力の養成のために、専門基礎科目、専門科目、専門選択科目（教職基礎科目を含む）が提供される。

４年次では、プログラムの到達点である卒業研究が提供される。さらに器楽、声楽、作曲については継続して研究できるよう配慮されている。

（４）卒業論文（卒業研究）（位置付け，配属方法・時期等）

卒業論文は、本プログラムが目指す中・高等学校音楽科教員養成あるいは生涯教育における専門的指導者養成の到達点である。それまでに身に付けた必要な能力、技能を活用し、実際の教育・研究場面に使用し、自らの達成水準を見極め、さらに発展させ深めることを目的とする。

５．授業科目及び授業内容

履修表を参照のこと。

６．教育・学習

（１） 教育方法・学習方法

〇概要

音楽教育学領域、音楽学領域、声楽領域、器楽領域、作曲領域から１研究領域を選択し、卒業論文指導教員の指導の下、各自が選択する研究テーマに即して研究を進め、４年次10月の所定期日に研究テーマを、１月末には卒業論文を提出する。

〇配属時期と配属方法

３年次前期末に、卒業論文指導教員を決め（ゼミ分け）、主要な研究領域を選択する。３年次後期以降、必要な授業科目のほか、主要な研究領域の授業科目を重点的に選択し、４年次に卒業論文作成を行う。

（２）学習支援体制

１．チューター：基本的には１年次から４年次まで学年チューターが指導する。

２．卒業論文：３年次から卒業論文ゼミの指導教員が指導する。

３．プログラム教員会：音楽文化教育学講座の全教員が当たり、学習支援体制をつくる。

４．講座支援室：音楽文化教育学講座が本プログラムにおける教育の支援に当たる（音楽文化教育学講座事務室：音楽棟Ｆ２０４　ＴＥＬ：０８２－４２４－６８３４）

５．施設：学生練習室２０室、ハープ練習室２室、レッスン室３室、音楽演奏室、アンサンブル室３室、資料室２室、視聴覚室、音楽資料調査室、音楽実験室２室、ゼミナール室、楽器庫等が設備されている。

７．評価（試験・成績評価）

（１）到達度チェックの仕組み

〇個人成績

１）授業科目ごとの成績は、秀、優、良、可及び不可で判断する。

２）各学年で、評価項目ごとに到達度を確定し、個々の達成水準を明示する。

〇成績評価

１）１年次、２年次、３年次と、各学年末に取得単位数と成績達成水準を明示する。

２）取得単位数が少ない場合及び成績達成水準が低い場合でも進級は認めるが、次年度開始時に問題点と課題が呈示される。

３）４年次ではこれまでの成績、卒業要件単位数、評価項目ごとの達成度に加味して、卒業論文の成績により、本プログラムでの総合的な成績評価が提示される。

（２）成績が示す意味

８．プログラムの責任体制と評価

（１）ＰＤＣＡ責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価（check)・改善（action)）

本プログラムは、主として教育学部の音楽文化教育学講座のスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（音楽文化教育学講座の主任）にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム教員全員が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

（２）プログラムの評価

・ プログラム評価の観点
・ 評価の実施方法（授業評価との関連も記載）
・ 学生へのフィードバックの考え方とその方法

a. プログラムの評価の観点

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果を評価の観点にする。教育的効果では、プログラムの実施自体による学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

b. 評価の実施方法

本プログラムは、上記の評価の観点にしたがい、原則として入学して４年経た年次にプログラム自体の成果を評価する。第１の教育的効果に関しては、本プログラムを学習した学生の到達率（卒業要件の充足による評価、及び実施した教員グループによる総合的な評価）によって行われる。単位充足率とともに、教員の総合評価にもとづいて、本プログラムの到達水準まで各学生が達したかどうか、学生全体でどのような割合で達したのかを調べ、一定の達成率があるかどうかを点検する。

第２の社会的効果に関しては、中・高等学校音楽科教員の場合は、学生の教員採用試験の合格率による評価、採用後の音楽科教員としての成長度による評価として実施される。生涯教育における専門的指導者の場合は、公共事業団体や音楽関連などの一般企業への就職率によって評価される。

c. 学生へのフィードバック

プログラムの評価結果は、プログラム担当委員会においてプログラム内容の見直しや改善をするとともに、学生の指導及び各授業科目の効果を検討し、検討結果を次年次以降のプログラム運営・実施に反映させる。

※担当教員リストは，別紙５を参照。

別紙１

プログラムの教育・学習方法

○　知識・理解

身につく知識・技能・態度等

・中等学校とその教育に関する基礎的な知識の習得とその理解
・中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識の習得とその理解
・中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識の習得とその理解
・生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的知識の習得とその理解

教育・学習の方法

それぞれの項目については、専門基礎科目、及び専門科目の関連講義・演習における自己学習、レポート作成などを通して理解させる。

評価

評価は、試験、レポート、課題、実技、発表、出席率などによって行う。

○　知的能力・技能

身につく知識・技能・態度等

・中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得
・音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得

教育・学習の方法

それぞれの項目については、研究、演奏、作品制作、フィールドワーク、各種リサーチ、グループ討議、コンサート制作、アンサンブル実習などを通して学習し、卒業論文、卒業演奏、卒業作品に発展させる。

評価

評価は、試験、レポート、課題、実技、発表、出席率などによって行う。

○　実践的能力・技能

身につく知識・技能・態度等

・中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得

・音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得

教育・学習の方法

それぞれの項目については、研究、演奏、作品制作、フィールドワーク、各種リサーチ、グループ討議、コンサート制作、アンサンブル実習などを通して学習し、卒業論文、卒業演奏、卒業作品に発展させる。

評価

評価は、試験、レポート、課題、実技、発表、出席率などによって行う。

○　総合的能力・技能

身につく知識・技能・態度等

・中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力の習得

・中等音楽系教育内容に関する基礎的能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系諸科目を統合する横断的能力の習得

・生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、プレゼンテーション能力などの実践的能力の習得

教育・学習の方法

中等音楽系教育におけるカリキュラム作成、教材開発、指導案作成を行う。生涯教育・音楽文化領域における企画案作成、プレゼンテーション、演奏などの実践的課題の遂行を通して発達させる。

評価

評価は、実習、レポート、卒業論文、卒業演奏、卒業作品でなされる。特に卒業論文、卒業演奏、卒業作品では、複数の教員の合議によって評価される。

別紙2　主専攻プログラム　モデル体系図

教育学部　音楽文化教育プログラム

（専門教育における）学習の成果		教養教育到達目標	1年		2年		3年		4年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	1）中等学校とその教育に関する基礎的な知識の習得とその理解	1．多角的な視点から平和について考え，自分の意見を述べることができる。 2．理念と現実の葛藤を含め，平和を妨げる種々の要因とそこでの複雑な様相について理解し，説明できる。	平和科目（◎）							
	2）中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識の習得とその理解	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題（社会のしくみと科学の在り方，知の営みの意味，いのちの重み，多様な文化間の交流や対立，自然と共生する意義など）について，多角的な視点から説明できる。	パッケージ科目（◎） パッケージ科目（◎） ソルフェージュⅠ（◎）	パッケージ科目（◎） ソルフェージュⅡ（△）	音楽教育学概論（◎）			音楽文化教育史（△）	音楽科教育実践演習3（△）	
	3）中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識	外国語を活用することで，多くの言語や文化を理解できる。	外国語科目（◎） 外国語科目（◎）	外国語科目（◎）	西洋音楽史I（◎） 作曲1（△）	西洋音楽史II（△） 作曲2（△） 音楽科授業論（△）	日本音楽概論（△） 音楽科実践論（△） 作曲3（△）	作曲4（△）	作曲5（△） 音楽科教育実践演習3（△）	作曲6（△）
	4）生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識の習得とその理解	1．各学問領域について，その形成過程・発展過程を説明できる。 2．各学問領域が文化・社会とどのように関わっているのかについて，説明できる。	領域科目（△） ソルフェージュⅠ（◎） 作曲基礎研究Ⅰ（◎）	領域科目（△） ソルフェージュⅡ（△） 作曲基礎研究Ⅱ（△）	芸術社会論（△）		音楽美学（△）			
知的能力・技能	1）中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得	1．基礎的な方法で資料を収集できる。 2．特定の事象から課題を発見し，説明できる。 3．論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。	教養ゼミ（◎）			音楽文化教育研究法（◎） 音楽科授業論（△）	音楽科実践論（△）	音楽文化教育史（△）		卒業論文（◎）
	2）音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得	特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて，複数の視点から説明できる。	総合科目（◎）		音楽教育学概論（◎）	音楽文化教育研究法（◎）				卒業論文（◎）
実践的能力・技能	1）中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力の習得	1．情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し，説明できる。 2．情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び，情報の処理や受発信を適切に行うことができる。	情報科目（◎）		音楽文化（音楽科）カリキュラムデザイン論（◎）	音楽教育教材構成論（△） 音楽科授業論（△）	音楽科実践論（△） 音楽教育方法・評価論（△）			
	2）中等音楽系教育内容に関する基礎的能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力の習得	1．各学問領域について，その形成過程・発展過程を説明できる。 2．各学問領域が文化・社会とどのように関わっているのかについて，説明できる。	声楽基礎研究Ⅰ（◎） 器楽基礎研究Ⅰ（◎） ソルフェージュⅠ（◎）	声楽基礎研究Ⅱ（◎） 器楽基礎研究Ⅱ（◎） 領域科目（△） ソルフェージュⅡ（△） 作曲基礎研究Ⅱ（△）	声楽1（△） 弦楽器1（△） 作曲1（△） 管弦打楽器Ⅰ（△） 指揮法Ⅰ（△）	声楽2（△） 弦楽器2（△） 作曲2（△） 管弦打楽器Ⅱ（△） 指揮法Ⅱ（△）	声楽3（△） 弦楽器3（△） 作曲3（△） 管弦打楽器Ⅲ（△） 中等音楽科教育法（日本音楽・民族音楽）（△） 音楽科教育実践演習1（△）	声楽4（△） 弦楽器4（△） 作曲4（△） 管弦打楽器Ⅳ（△） 音楽科教育実践演習2（△）	声楽5（△） 弦楽器5（△） 作曲5（△） 管弦打楽器Ⅴ（△）	声楽6（△） 弦楽器6（△） 作曲6（△） 管弦打楽器Ⅵ（△）
	3）生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力の習得	1．体力・健康づくりの必要性を科学的に説明できる。 2．スポーツの実践を通じて，生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や，マナー・協調性などの重要性を理解し，説明でき	健康スポーツ科目（◎） 器楽基礎研究Ⅰ（◎） 鍵盤楽器基礎研究Ⅰ（◎）	器楽基礎研究Ⅱ（◎） 鍵盤楽器基礎研究Ⅱ（◎）	声楽1（△） ピアノ1（△） 弦楽器1（△） 指揮法Ⅰ（△）	声楽2（△） ピアノ2（△） 弦楽器2（△） 指揮法Ⅱ（△） 生涯活動教育論（◎）	声楽3（△） ピアノ3（△） 弦楽器3（△）	声楽4（△） ピアノ4（△） 弦楽器4（△）	ピアノ5（△） 弦楽器5（△）	ピアノ6（△） 弦楽器6（△）

総合的能力・技能	1）研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる能力	外国語を活用して，口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。	外国語科目（◎）	外国語科目（◎）		音楽文化教育研究法（◎）	音楽科教育実践演習1（△）	音楽科教育実践演習2（△）	音楽科教育実践演習3（△）	卒業論文（◎）
	2）教育実践や調査に関する発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領良く整理し、プレゼンテーションできる能力	1．各学問領域について，その形成過程・発展過程を説明できる。 2．各学問領域が文化・社会とどのように関わっているのかについて，説明できる。	領域科目（△）	領域科目（△）						
	3）教育実習や定期演奏会などによって育成される社会性・協調性		吹奏楽I（△）	吹奏楽II（△）			コンサート・マネージメントⅠ（◎）	コンサート・マネージメントⅡ（◎）		
	4）研究において必要とされるIT活用力						音楽科教育実践演習1（△）	音楽科教育実践演習2（△）	音楽科教育実践演習3（△）	卒業論文（◎）
	5）様々な文化における音楽芸術に感動できる能力		鍵盤楽器基礎研究Ⅰ（◎）	鍵盤楽器基礎研究Ⅱ（◎）	西洋音楽史I（◎） ピアノ1（△）	西洋音楽史II（△） ピアノ2（△）	日本音楽概論（△） ピアノ3（△）	ピアノ4（△）	声楽5（△） ピアノ5（△）	声楽6（△） ピアノ6（△）

教養科目　専門基礎　専門科目　卒業論文　（◎）必修科目　（〇）選択必修科目　（△）選択科目

教　養　教　育　科　目　履　修　基　準　表

第四類　音楽文化系コース（音楽文化教育プログラム）

区分	科目区分				要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)							
									1年次		2年次		3年次		4年次	
									1ｾﾒ	2ｾﾒ	3ｾﾒ	4ｾﾒ	5ｾﾒ	6ｾﾒ	7ｾﾒ	8ｾﾒ
教養教育科目	教養コア科目	教養ゼミ			2	教養ゼミ	2	必修	○							
		平和科目			2		2	選択必修	○	○						
		パッケージ別科目			6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○						
	共通科目	外国語科目	英語（注2）	コミュニケーション基礎	(0)	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	自由選択	○							
						コミュニケーション基礎Ⅱ	1			○						
				コミュニケーションⅠ(注3)	4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○							
						コミュニケーションⅠB	1		○							
				コミュニケーションⅡ(注3)		コミュニケーションⅡA	1			○						
						コミュニケーションⅡB	1			○						
						上記4科目から2科目以上										
				コミュニケーションⅢ	2	コミュニケーションⅢA	1	選択必修			○	○				
						コミュニケーションⅢB	1									
						コミュニケーションⅢC	1									
						上記3科目から2科目										
			初修外国語（ドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国語，アラビア語のうちから1言語選択）		4	ベーシック外国語Ⅰから2科目	1	選択必修	○							
						ベーシック外国語Ⅱから2科目	1			○						
		情報科目			2	(注4)	2	選択必修	○							
		領域科目			(12)	すべての領域から(注5)	1又は2	選択必修	○	○	○	○				
		健康スポーツ科目			2		1又は2	選択必修	○	○						
	基盤科目				(0)		1～3	自由選択	○	○	○	○				
	計				36											

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお，当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので，毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を，卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また，外国語技能検定試験，語学研修による単位認定制度もある。詳細については，学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上，1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が，2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお，「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は，2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注5：・教育職員免許状を取得するためには，「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

・修得したコミュニケーション基礎及び基盤科目の単位を算入することができる。ただし，基盤科目にあっては4単位を限度とする。

学 部 履 修 基 準

第　四　類（生涯活動教育系）

○　音 楽 文 化 系 コ ー ス（音楽文化教育プログラム）

<table>
<tr><th colspan="4">科　目　区　分　等</th><th>要 修 得 単 位 数</th><th colspan="2">開 設 学 部</th></tr>
<tr><td rowspan="10">教養教育</td><td rowspan="3">教養コア科目</td><td colspan="2">教　養　ゼ　ミ</td><td>2</td><td rowspan="10">３６</td><td rowspan="10">総合科学部ほか</td></tr>
<tr><td colspan="2">平　和　科　目</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">パッケージ別科目</td><td>6</td></tr>
<tr><td rowspan="7">共通科目</td><td rowspan="2">外国語科目</td><td>英　語</td><td>6</td></tr>
<tr><td>初修外国語</td><td>4</td></tr>
<tr><td colspan="2">情　報　科　目</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">領　域　科　目</td><td>（１２）</td></tr>
<tr><td colspan="2">健康スポーツ科目</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="3">基　盤　科　目</td><td>（0）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門教育</td><td colspan="3">専　門　基　礎　科　目</td><td>３０</td><td rowspan="5">９２</td><td rowspan="5">教育学部ほか</td></tr>
<tr><td colspan="3">専　門　科　目</td><td>３１</td></tr>
<tr><td colspan="3">専　門　選　択　科　目</td><td rowspan="2">２５</td></tr>
<tr><td colspan="3">自　由　選　択　科　目</td></tr>
<tr><td colspan="3">卒　業　研　究</td><td>6</td></tr>
<tr><td colspan="4">合　計</td><td colspan="2">１２８</td><td></td></tr>
</table>

＜履修上の注意＞

『自由選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は，２５単位まで認める。

専 門 教 育 科 目 履 修 基 準

第四類　音楽文化系コース（音楽文化教育プログラム）

○印は必修

区分	授業科目	開設単位数	学期別週授業時数 1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	免許法該当科目	備考
専門基礎科目	生涯活動教育論	②				2						類共通科目
	音楽教育学概論	②			2						教科の指導法（音楽）	
	音楽文化（音楽科）カリキュラムデザイン論	②			2						〃	
	西洋音楽史Ⅰ	②			2						音楽理論，作曲法及び音楽史	
	声楽基礎研究Ⅰ	②	2								声楽	
	声楽基礎研究Ⅱ	②		2							声楽	
	鍵盤楽器基礎研究Ⅰ	②	2								器楽	
	鍵盤楽器基礎研究Ⅱ	②		2							器楽	
	作曲基礎研究Ⅰ	②	2								音楽理論，作曲法及び音楽史	
	合唱Ⅰ	①			2						声楽	
	合唱Ⅱ	①				2					〃	
	器楽基礎研究Ⅰ	②	2								〃	
	器楽基礎研究Ⅱ	②		2							〃	
	ソルフェージュⅠ	①	2								ソルフェージュ	
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅰ	①			2						器 楽	
	コンサート・マネージメントⅠ	①					1					
	コンサート・マネージメントⅡ	①						1				
	音楽文化教育研究法	②				2						
専門科目	音楽文化教育史	2						2			教科又は教職に関する科目	
	音楽科授業論	2				2					教科の指導法（音楽）	
	音楽科実践論	2					2				〃	
	音楽教育方法・評価論	2					2				〃	
	音楽教育教材構成論	2				2					〃	
	音楽科教育実践演習１	1					2				教科の指導法（音楽）	
	音楽科教育実践演習２	1						2			教科の指導法（音楽）	
	音楽科教育実践演習３	1							2		教科の指導法（音楽）	
	日本音楽概論	2					2				音楽理論，作曲法及び音楽史	
	西洋音楽史Ⅱ	2				2					音楽理論，作曲法及び音楽史	
	中等音楽科教育法（日本音楽・民族音楽）	2					2				〃	
	ソルフェージュⅡ	1		2							ソルフェージュ	
	声楽１	1			2						声楽	
	声楽２	1				2					〃	
	声楽３	1					2				〃	
	声楽４	1						2			〃	
	声楽５	1							2		〃	
	声楽６	1								2	〃	

○印は必修

区分	授業科目	開設単位数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ		
専門科目	オペラ実習Ⅰ	1			2						声楽	
	オペラ実習Ⅱ	1				2					〃	
	オペラ実習Ⅲ	1					2				〃	
	オペラ実習Ⅳ	1						2			〃	
	合唱Ⅲ	1					2				〃	
	合唱Ⅳ	1						2			〃	
	ピアノ１	1			2						器楽	
	ピアノ２	1				2					〃	
	ピアノ３	1					2				〃	
	ピアノ４	1						2			〃	
	ピアノ５	1							2		〃	
	ピアノ６	1								2	〃	
	弦楽器１	1			2						〃	
	弦楽器２	1				2					〃	
	弦楽器３	1					2				〃	
	弦楽器４	1						2			〃	
	弦楽器５	1							2		〃	
	弦楽器６	1								2	〃	
	作曲基礎研究Ⅱ	2		2							音楽理論，作曲法及び音楽史	
	作曲１	1			2						〃	
	作曲２	1				2					〃	
	作曲３	1					2				〃	
	作曲４	1						2			〃	
	作曲５	1							2		〃	
	作曲６	1								2	〃	
	指揮法Ⅰ	1			2						指揮法	
	指揮法Ⅱ	1				2					〃	
	管弦打楽器Ⅰ	1			2						器楽	
	管弦打楽器Ⅱ	1				2					〃	
	管弦打楽器Ⅲ	1					2				〃	
	管弦打楽器Ⅳ	1						2			〃	
	管弦打楽器Ⅴ	1							2		〃	
	管弦打楽器Ⅵ	1								2	器楽	
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅱ	1				2					〃	
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅲ	1					2				〃	
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅳ	1						2			〃	
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅴ	1							2		〃	
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅵ	1								2	〃	

○印は必修

区分	授業科目	開設 単位数	学期別週授業時数 1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	免許法該当科目	備考
専門科目	アンサンブルＢⅠ	1			2						〃	
	アンサンブルＢⅡ	1				2					〃	
	アンサンブルＢⅢ	1					2				〃	
	アンサンブルＢⅣ	1						2			〃	
	アンサンブルＢⅤ	1							2		〃	
	アンサンブルＢⅥ	1								2	〃	
	音楽美学	2					2					総合科学部
	芸術社会論	2			2							総合科学部
専門選択科目	教職入門	2			2						教職の意義及び教員の役割，教員の職務内容，進路選択に資する各種の機会の提供等	
	教育の思想と原理	2			2						教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
	児童・青年期発達論	2					2				幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
	教育と社会・制度	2				2					教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	
	教育課程論	2					2				教育課程の意義及び編成の方法	
	道徳教育指導法	2					2				道徳の指導法	
	特別活動指導法	2				2					特別活動の指導法	
	教育方法・技術論	2						2			教育の方法及び技術	
	生徒・進路指導論	2				2					生徒指導の理論及び方法，進路指導の理論及び方法	
	教育相談	2						2			教育相談	
	中・高等学校教育実習入門	2	2								教育実習（事前指導）	
	中・高等学校教育実習観察	1				集中					教育実習（事前指導）	
	教育実習指導Ｂ	1					集中				教育実習（事前指導）	
	中・高等学校教育実習Ⅰ	4						集中			教育実習（中学校本免用）	
	中・高等学校教育実習Ⅱ	2							集中		教育実習（高等学校本免用）	
	教職実践演習（中・高）	2								2	教職実践演習	
	介護等体験事前指導	1			1						教科又は教職に関する科目	
自由選択科目	本コース，本学部他コース，特別科目及び他学部等が開設する専門教育科目（副専攻プログラム及び特定プログラムを含む。）											
卒業研究	卒業論文	⑥										

別紙４

到達目標評価項目と評価基準の表

○　知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている(Modal)	基準に達している (Threshold)	備　考 (適用科目名を記載) ※（ ）内は履修ｾﾒｽﾀｰ
１）中等学校とその教育に関する基礎的な知識の習得とその理解	中等学校とその教育に関する十分な知識が習得できており、それらの理解にもとづいて中等学校やその教育の問題点と課題を指摘し、改善策を示すことができる。	中等学校とその教育に関する知識が習得できており、それらにもとづいて中等学校やその教育の問題点や課題を指摘することができる。	中等学校とその教育に関する基礎的知識の習得とその理解ができる。	
２）中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識の習得とその理解	中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識を十分もっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識が身に付いている。	・ソルフェージュⅠ（1） ・ソルフェージュⅡ（2） ・音楽文化教育史（6） ・音楽科教育実践演習３（7）
３）中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識	中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識が身に付いている。	・西洋音楽史Ⅰ（3） ・作曲１（3） ・西洋音楽史Ⅱ（4） ・作曲２（4） ・音楽科授業論（4） ・日本音楽概論（5） ・音楽科教育実践演習３（7） ・音楽科実践論（5） ・作曲３（5） ・作曲４（6） ・作曲５（7） ・作曲６（8）
４）生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識の習得とその理解	生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識が身に付いている。	・ソルフェージュⅠ（1） ・作曲基礎研究Ⅰ（1） ・ソルフェージュⅡ（2） ・作曲基礎研究Ⅱ（2） ・芸術社会論（3） ・音楽美学（5）

○　知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備　考 (適用科目名を記載) ※（ ）内は履修ｾﾒｽﾀｰ
１）中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得	中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる十分な知的能力と技能を習得することができる。	中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる適切な知的能力と技能を習得することができる。	中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能を習得することができる。	・音楽教育学概論（3） ・音楽文化教育研究法（4） ・卒業論文（8）
２）音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得	音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる十分な知的能力と技能を習得することができる。	音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる適切な知的能力と技能を習得することができる。	音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能を習得することができる。	・音楽文化教育研究法（4） ・卒業論文（8）

○　実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備　考 (適用科目名を記載) ※（ ）内は履修ｾﾒｽﾀｰ
１）中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力の習得	中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力を総合的に習得することができる。	中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力を十分に習得することができる。	中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力を習得することができる。	・音楽文化（音楽科）カリキュラムデザイン論（3） ・音楽教育教材構成論（4） ・音楽科授業論（4） ・音楽科実践論（5） ・音楽教育方法・評価論（5）
２）中等音楽系教育内容に関する基礎的能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力の習得	中等音楽系教育内容に関する基礎的能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力を総合的に習得することができる。	中等音楽系教育内容に関する基礎的能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力を十分に習得することができる。	中等音楽系教育内容に関する基礎的能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力を習得することができる。	・声楽基礎研究Ⅰ（1） ・器楽基礎研究Ⅰ（1） ・ソルフェージュⅠ（1） ・声楽基礎研究Ⅱ（2） ・器楽基礎研究Ⅱ（2） ・ソルフェージュⅡ（2） ・作曲基礎研究Ⅱ（2） ・声楽１（3） ・弦楽器１（3） ・管弦打楽器Ⅰ（3） ・指揮法Ⅰ（3） ・声楽２（4） ・弦楽器２（4） ・管弦打楽器Ⅱ（4） ・指揮法Ⅱ（4） ・声楽３（5） ・弦楽器３（5） ・管弦打楽器Ⅲ（5） ・中等音楽科教育法 （日本音楽・民族音楽）（5） ・声楽４（6） ・弦楽器４（6） ・管弦打楽器Ⅳ（6） ・作曲１（3） ・作曲２（4） ・作曲３（5） ・作曲４（6） ・作曲５（7） ・作曲６（8） ・声楽５（7） ・弦楽器５（7） ・管弦打楽器Ⅴ（7） ・声楽６（8） ・弦楽器６（8） ・管弦打楽器Ⅵ（8） ・音楽科教育実践演習１（5） ・音楽科教育実践演習２（6）

３）生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力の習得	生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力を総合的に習得することができる。	生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力を十分に習得することができる。	生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導・企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力を習得することができる。	・器楽基礎研究Ⅰ（1） ・鍵盤楽器基礎研究Ⅰ（1） ・器楽基礎研究Ⅱ（2） ・鍵盤楽器基礎研究Ⅱ（2） ・声楽１（3） ・弦楽器１（3） ・指揮法Ⅰ（3） ・ピアノ１（3） ・声楽２（4） ・弦楽器２（4） ・指揮法Ⅱ（4） ・ピアノ２（4） ・生涯活動教育論（4） ・声楽３（5） ・弦楽器３（5） ・ピアノ３（5） ・声楽４（6） ・弦楽器４（6） ・ピアノ４（6） ・弦楽器５（7） ・ピアノ５（7） ・弦楽器６（8） ・ピアノ６（8）

○　総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備　考 (適用科目名を記載) ※（ ）内は履修ｾﾒｽﾀｰ
1）研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる能力	研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる総合的な能力がある。	研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる十分な能力がある。	研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる能力がある。	・音楽文化教育研究法（4） ・音楽科教育実践演習１（5） ・音楽科教育実践演習２（6） ・音楽科教育実践演習３（7） ・卒業論文（8）
2）教育実践や調査に関する発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領良く整理し、プレゼンテーションできる能力	教育実践や調査に関する発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領良く整理し、プレゼンテーションできる総合的な能力がある。	教育実践や調査に関する発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領良く整理し、プレゼンテーションできる十分な能力がある。	教育実践や調査に関する発表において、相互のコミュニケーションを確保し、成果や主張、発表内容を要領良く整理し、プレゼンテーションできる能力がある。	
3）教育実習や定期演奏会などによって育成される社会性・協調性	教育実習や定期演奏会などによって育成された適切な社会性・協調性が十分にある。	教育実習や定期演奏会などによって育成された適切な社会性・協調性がある。	教育実習や定期演奏会などによって育成された社会性・協調性がある。	・コンサートマネージメントⅠ（5） ・コンサートマネージメントⅡ（6）
4）研究において必要とされる IT 活用力	研究において必要とされる IT 活用力が十分にあり、それを応用することができる。	研究において必要とされる IT 活用力が十分にある。	研究において必要とされる IT 活用力がある。	・音楽科教育実践演習１（5） ・音楽科教育実践演習２（6） ・音楽科教育実践演習３（7） ・卒業論文（8）
5）様々な文化における音楽芸術に感動できる能力	様々な文化における音楽芸術に感動できる能力が十分にあり、それを表現に反映することができる	様々な文化における音楽芸術に感動できる能力が十分にある	様々な文化における音楽芸術に感動できる能力がある	・鍵盤楽器基礎研究Ⅰ（1） ・鍵盤楽器基礎研究Ⅱ（2） ・ピアノ１（3） ・西洋音楽史Ⅰ（3） ・西洋音楽史Ⅱ（4） ・ピアノ２（4） ・日本音楽概論（5） ・ピアノ３（5） ・ピアノ４（6） ・声楽５（7） ・ピアノ５（7） ・声楽６（8） ・ピアノ６（8）

(第4類　音楽文化系　　)コース　　(音楽文化教育　　)プログラム　　平成26年度入学生用(別表)

区分	授業科目	開設単位	学期別週授業時数 セメスター								到達目標の評価項目 A(知識・理解)							B(知的能力・技能)							C(実践的能力・技能)						D(総合的能力・技能)					備考
			1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	
専門基礎科目	生涯活動教育論	②				2																					○									
	音楽教育学概論	②			2							○							○																	
	音楽文化（音楽科）カリキュラムデザイン論	②			2																				○											
	西洋音楽史Ⅰ	②			2								○																						○	
	声楽基礎研究Ⅰ	②	2																							○										
	声楽基礎研究Ⅱ	②		2																						○										
	鍵盤楽器基礎研究Ⅰ	②	2																								○								○	
	鍵盤楽器基礎研究Ⅱ	②		2																							○								○	
	作曲基礎研究Ⅰ	②	2											○																						
	合唱Ⅰ	①			2																															
	合唱Ⅱ	①				2																														
	器楽基礎研究Ⅰ	②	2																							○	○									
	器楽基礎研究Ⅱ	②		2																						○	○									
	ソルフェージュⅠ	①	2									○		○												○										
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅰ	①			2																															
	コンサート・マネージメントⅠ	①					1																										○			
	コンサート・マネージメントⅡ	①						1																									○			
	音楽文化教育研究法	②				2												○	○												○					
	音楽文化教育史	2						2				○						○																		
	音楽科授業論	2				2							○					○							○											
	音楽科実践論	2					2						○					○							○											
	音楽教育方法・評価論	2					2																		○											
	音楽教育教材構成論	2				2																			○											
	音楽科教育実践演習１	1					2																			○					○			○		
	音楽科教育実践演習２	1						2																		○					○			○		
	音楽科教育実践演習３	1							2			○	○																		○			○		
	日本音楽概論	2					2						○																						○	
	西洋音楽史Ⅱ	2				2							○																						○	
	中等音楽科教育法（日本音楽・民族音楽）	2					2																			○										
	ソルフェージュⅡ	1		2								○		○												○										
	声楽１	1			2																					○	○									
	声楽２	1				2																				○	○									
	声楽３	1					2																			○	○									
	声楽４	1						2																		○	○									
	声楽５	1							2																	○									○	
	声楽６	1								2																○									○	
	オペラ実習Ⅰ	1			2																															
	オペラ実習Ⅱ	1				2																														
	オペラ実習Ⅲ	1					2																													
	オペラ実習Ⅳ	1						2																												
	合唱Ⅲ	1					2																													
	合唱Ⅳ	1						2																												
	ピアノ１	1			2																						○								○	
	ピアノ２	1				2																					○								○	
	ピアノ３	1					2																				○								○	

(第4類　音楽文化系　　)コース　　(音楽文化教育　　)プログラム　　平成26年度入学生用(別表)

区分	授業科目	開設単位	学期別週授業時数 セメスター								到達目標の評価項目 A(知識・理解)							B(知的能力・技能)							C(実践的能力・技能)						D(総合的能力・技能)					備考
			1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	
専門科目	ピアノ４	1						2																			○								○	
	ピアノ５	1							2																		○								○	
	ピアノ６	1								2																	○								○	
	弦楽器１	1			2																					○	○									
	弦楽器２	1				2																				○	○									
	弦楽器３	1					2																			○	○									
	弦楽器４	1						2																		○	○									
	弦楽器５	1							2																	○	○									
	弦楽器６	1								2																○	○									
	作曲基礎研究Ⅱ	2		2										○												○										
	作曲１	1			2								○													○										
	作曲２	1				2							○													○										
	作曲３	1					2						○													○										
	作曲４	1						2					○													○										
	作曲５	1							2				○													○										
	作曲６	1								2			○													○										
	指揮法Ⅰ	1			2																					○	○									
	指揮法Ⅱ	1				2																				○	○									
	管弦打楽器Ⅰ	1			2																					○										
	管弦打楽器Ⅱ	1				2																				○										
	管弦打楽器Ⅲ	1					2																			○										
	管弦打楽器Ⅳ	1						2																		○										
	管弦打楽器Ⅴ	1							2																	○										
	管弦打楽器Ⅵ	1								2																○										
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅱ	1				2																														
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅲ	1					2																													
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅳ	1						2																												
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅴ	1							2																											
	アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅵ	1								2																										
	アンサンブルＢⅠ	1			2																															
	アンサンブルＢⅡ	1				2																														
	アンサンブルＢⅢ	1					2																													
	アンサンブルＢⅣ	1						2																												
	アンサンブルＢⅤ	1							2																											
	アンサンブルＢⅥ	1								2																										
	音楽美学	2					2							○																						
	芸術社会論	2			2									○																						
卒業研究	卒業論文	⑥																○	○												○			○		

別紙５

担　　当　　教　　員

担当教員名	担　当　授　業　科　目　等	備　考
三村　真弓	担当授業科目：音楽教育学概論 音楽文化教育史 音楽科授業論 音楽科実践論 生涯活動教育論 音楽科教育実践演習１ 音楽科教育実践演習２ 音楽科教育実践演習３ 音楽文化教育研究法 管弦打楽器Ⅰ 管弦打楽器Ⅱ 管弦打楽器Ⅲ 管弦打楽器Ⅳ 管弦打楽器Ⅴ 管弦打楽器Ⅵ 中・高等学校教育実習入門 コンサートマネージメントⅠ コンサートマネージメントⅡ 卒業論文 研究室の場所：教育学部Ｆ棟３０９ E-mail ｱﾄﾞﾚｽ：mimuram@hiroshima-u.ac.jp	三村　真弓
伊藤　真	担当授業科目：音楽文化（音楽科）カリキュラムデザイン論 音楽教育方法・評価論 音楽教育教材構成論 生涯活動教育論 音楽科教育実践演習１ 音楽科教育実践演習２ 音楽科教育実践演習３ 音楽文化教育研究法 中等音楽科教育法（日本音楽・民族音楽）	伊藤　真

	中・高等学校教育実習入門 コンサートマネージメントⅠ コンサートマネージメントⅡ 卒業論文 教職実践演習 研究室の場所：教育学部Ｆ棟３０１,３０２ E-mail ｱﾄﾞﾚｽ：itoshin@hiroshima-u.ac.jp	
（未定）	担当授業科目：西洋音楽史Ⅰ 西洋音楽史Ⅱ 日本音楽概論 研究室の場所： E-mail ｱﾄﾞﾚｽ：	（未定）
徳永　崇	担当授業科目：作曲基礎研究Ⅰ 作曲基礎研究Ⅱ 作曲１ 作曲２ 作曲３ 作曲４ 作曲５ 作曲６ 音楽文化教育研究法 音楽科教育実践演習１ 音楽科教育実践演習２ 音楽科教育実践演習３ アンサンブルＢⅠ アンサンブルＢⅡ アンサンブルＢⅢ アンサンブルＢⅣ アンサンブルＢⅤ アンサンブルＢⅥ コンサートマネージメントⅠ コンサートマネージメントⅡ 卒業論文 教職実践演習 研究室の場所：教育学部Ｆ棟３０４	徳永　崇

	E-mail ｱﾄﾞﾚｽ：t-tokunaga@hiroshima-u.ac.jp	
濵本　恵康	担当授業科目：鍵盤楽器基礎研究 Ⅰ 鍵盤楽器基礎研究 Ⅱ ピアノ１ ピアノ２ ピアノ３ ピアノ４ ピアノ５ ピアノ６ 音楽科教育実践演習１ 音楽科教育実践演習２ 音楽科教育実践演習３ コンサートマネージメントⅠ コンサートマネージメントⅡ 卒業論文 教職実践演習 研究室の場所：教育学部Ｆ棟１０７ E-mail ｱﾄﾞﾚｽ：yhamamo@hiroshima-u.ac.jp	濵本　恵康
草間　眞知子	担当授業科目：鍵盤楽器基礎研究 Ⅰ 鍵盤楽器基礎研究 Ⅱ ピアノ１ ピアノ２ ピアノ３ ピアノ４ ピアノ５ ピアノ６ 卒業論文 教職実践演習 研究室の場所：教育学部Ｆ棟１０９ E-mail ｱﾄﾞﾚｽ：ma72520@hiroshima-u.ac.jp	草間　眞知子
髙旗　健次	担当授業科目：器楽基礎研究Ⅰ 器楽基礎研究Ⅱ 弦楽器１ 弦楽器２ 弦楽器３	髙旗　健次

	弦楽器４ 弦楽器５ 弦楽器６ 音楽文化教育研究法 アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅰ アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅱ アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅲ アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅳ アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅴ アンサンブルＡ（管弦楽）Ⅵ ソルフェージュⅠ ソルフェージュⅡ コンサートマネージメントⅠ コンサートマネージメントⅡ 卒業論文 教職実践演習 研究室の場所：教育学部Ｆ棟２０６ E-mail ｱﾄﾞﾚｽ：kent-violin@hiroshima-u.ac.jp	
枝川　一也	担当授業科目：声楽基礎演習Ⅰ 声楽基礎演習Ⅱ 声楽１ 声楽２ 声楽３ 声楽４ 声楽５ 声楽６ 合唱Ａ 合唱Ｂ 合唱Ⅰ 合唱Ⅱ 合唱Ⅲ 合唱Ⅳ オペラ実習Ⅰ オペラ実習Ⅱ オペラ実習Ⅲ オペラ実習Ⅳ 音楽科教育実践演習１	枝川　一也

	音楽科教育実践演習２ 音楽科教育実践演習３ コンサートマネージメントⅠ コンサートマネージメントⅡ 卒業論文 教職実践演習 研究室の場所：教育学部Ｆ棟２０５ E-mail ｱﾄﾞﾚｽ：edagawak@hiroshima-u.ac.jp	